

2016 年 11 月 7 日（月）13:00～14:30

平成 28 年度茨城県高等学校教育研究会家庭部研究大会

冷たい貨幣を温かいお金にする若者の金融リテラシー

東京家政学院大学 上村協子

はじめに 《地域の未来にクリック》

茨城県高等学校教育研究会 家庭部 主催の研究会でお話をさせて頂く機会をいただきありがとうございます。東京家政学院大学の上村でございます。本題のテーマでお話をする前に茨城の家庭科の先生方との今年の秋からのご縁をご紹介します。

まず第 1 は文部科学省の消費者教育フェスタです。皆さんは文部科学省が消費者教育フェスタというイベントを 2010 年度から開催していることをご存知でしょうか。毎年 3 回ほど、生涯学習政策局が実施し、第 1 回目のフェスタは東日本大震災直後の 2011 年 3 月。神戸や岐阜や大分、北海道でも行っています。

東京の虎ノ門にある文部科学省の講堂で 2015 年 10 月 18 日「高校生・大学生が取り組む消費者教育」をテーマに消費者教育フェスタが行われました。持続可能な社会作りの担い手となる若者が消費者教育を通して自分の未来、社会の未来について考え、消費者市民社会への主体的な参画を促すことを目的として、開催されたものです。高校家庭科の代表として、茨城県神栖高校の学校家庭クラブの生徒さんたちが登壇されました。地域の未来へクリック！～寸劇でスマートなスマホライフを～という発表でした。文部科学省の消費者教育推進委員会の委員ということで私は神栖高校にコメントをするお役で、【学校家庭クラブの可能性】についてお話いたしました。動画で見ていただけるといいのですが、堂々たる発表で今の若い人たち（といういい方は古いでしょうが）やるじゃないと感動しました。

第 2 に、消費者教育を推進するには地域のコーディネーターさんの役割が重要といわれます。茨城県消費生活相談員さんを対象に昨年 10 月 15 日に水戸、11 月 5 日に土浦で講演する機会がありました。土浦では、たまたま、神栖消費生活相談員の内藤さんが、神栖高校の生徒さんが文部科学省で事例報告してきた広報用の壁新聞をつくり市役所に持ち込む実物を持ってきて見せてくださいました。私は 2 つめの感動をもらいました。まず相談員さんの連携と、高校生たちが壁新聞を自分たちで行政に持ち込むという意欲とそこにかかれていた内容です。「事例発表では今までの練習の成果を発揮し、楽しく発表してきました。関係者のかたにも嬉しい評価をいただき、今後この活動をつづけて神栖地域に貢献していきたいと思いました。」地域の未来にコミットしているという実感が若い人を育て頑張るちからになると見せつけられた壁新聞でした。

【地域の未来へクリック】神栖高校の教材は消費者教育支援センターから表彰されたと郡山の学校家庭クラブの全国大会で聞きました。文部科学省初等中等教育局教科調査官市毛祐子先生から、茨城の家庭科の先生方が頑張っておられるご様子は伺っておりました。本年 6 月ゼミ生が藤代高校で教育実習をさせて頂き研究授業で雰囲気を感じました。継続してこられた家庭科教育の伝統にまず敬意を表します。

持続可能な社会とは、「将来世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満たすような社会」です。具体的には、「世代間の公平、地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境の保全と回復、天然資源の保全、公正で平和な社会など」が実現する社会です。日本の家庭科は持続可能な社会を創造する生活者を育てる教科と考えています。